

あとがき

本校は、平成 28 年度に改組し、4 年が過ぎ、令和 2 年度で 5 年目改組完成年度となります。令和元年度は、改組に関係した部分では、令和 2 年度のシラバスを作成し、総合理工学科 5 年間において、高専機構で進めているモデルコアカリキュラム（以下、MCC という。）への対応を 100% 達成しました。カリキュラムの実施においては、改組の目玉でもある異分野融合の各系からさらに専門的な 2 つのプログラム（4, 5 年生開講）として、先進科学系では、数学・物理科学プログラムと物質・生命科学プログラム、機械システム系では、機械設計プログラムとロボティクスプログラム、電気電子システム系では、エレクトロニクスプログラムと環境エネルギープログラム、情報システム系では、ネットワークプログラムと ICT プログラムを開始しました。全系横断演習Ⅱ（4 年生）では、3 年生で実施した全系横断演習Ⅰを継続し、また、5 年生の卒業研究に向けて研究室配属と導入学習を行えるようにしました。

令和元年度より、タイ政府奨学金留学生 2 名の 1 年生への受け入れを始めました。この留学生への対応については、新たに 1 名ずつ採用した日本語教員と理系分野担当教員、および授業担当教員、タイ留学生ワーキングメンバー等で情報交換しながら、授業や学生指導を進めたことにより、年度末には日本語も上達し、好結果に結び付けました。

さらに、グローバルエンジニア育成事業（高度育成）に採択され、海外協定校から派遣の教員による英語の授業の計画や海外インターンシップの推進活動に取り組んでいます。また、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」における美作大学との共同授業作成において、美作大学担当者と打ち合わせを行い、相互授業を令和 2 年度から始めることとなりました。課外活動において、中国地区高専大会の 4 競技と全国高専大会野球競技の担当校として、各競技を開催しました。さらに、NHK ロボコン、高専プロコン、高専デザコン等への参加を行いました。

令和元年度は、2 年に一度開催される有識者懇話会を開催し、本校の現状を報告し、有識者の方々から貴重なご意見をいただきました。

令和元年度の年度末には、新型コロナウイルスが発生し、卒業式や課外活動を中止し閉寮を早めたほか、令和 2 年度初めの各種行事についても、学生の健康や安全を第一にした対応を検討しました。

今後の課題は、令和 2 年度が、総合理工学科の完成年度となることから、新たな取り組みを行い、本校の教育目標に沿った教育としていくことです。また、教育内容としては、高専機構で設定された高専共通の MCC で示された到達目標を達成することになっています。

最後にこの『現状と課題』の作成においては、教育システム点検委員会や法人評価ワーキンググループをはじめ多くの皆さんにご尽力いただき感謝いたします。

令和 2 年 6 月

津山工業高等専門学校

教務主事 藪木 登